

五小の風景

No. 8

五日市小学校長 國政 直文

体験活動の大切さ

子どものころの体験が、大人になったときにどう影響するかを調査した「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」(国立青少年教育振興機構)の結果が報告されました。この調査は、小学校5・6年生と中学校2年生、高校2年生の計約1万1000人と、20代～60代の成人計5000人を対象に実施されたものです。この報告書のいくつかの調査結果を紹介します。

高校2年生について、中学生までに「ペットなどの生き物の世話をした」体験が多かった生徒と少なかった生徒を比較したところ、現在「友だちがとても幸せな体験をしたことを知ったら、私までうれしくなる」と答えた割合が、体験が多かった生徒は77%、少なかった生徒は69%。同様に、中学生までに「近所の小さい子どもと遊んであげた」体験が多かったか、少なかったかで比較してみると、現在「経験したことのないことには何でもチャレンジしてみたい」と答えた割合が、体験が多かった生徒は71%、少なかった生徒は53%。「ゴミ袋を出したり、捨てたりした」では、「けんかをした友だちを仲直りさせることができる」と答えた割合が、体験の多かった生徒は45%、少なかった生徒は28%という結果でした。この結果から、中学生までのそれぞれの体験が多かったほど、思いやり、意欲、人間関係能力といった資質が育っているということがいえます。

また、報告書の分析によりますと、自尊心や共生感、規範意識、職業意識などを含めた「体験の力」を高めるには、小学校低学年までは「友だちとの遊び」や「動植物とのかかわり」、高学年から中学生にかけては地域や家族とのかかわり(家事手伝い、自然体験など)が大切だということです。

成人についても同様に、子どもの頃地域清掃活動に参加したことがある人ほど現在「経験したことのないことには何でもチャレンジしてみたい」、ままごとやヒーローごっこをしたことがある人ほど「電車やバスに乗ったとき、お年寄りや身体の不自由な人には席を譲ろうと思う」、夜空いっぱい輝く星をゆっくりと見たことがある人ほど「友だちに相談されることがよくある」と回答しています。

報告書は「子どもの頃の体験が豊富な大人ほど、やる気や生きがいを持っている人が多く、モラルや人間関係能力が高い人が多い」とまとめています。

また、そうした大人ほど、「丁寧な言葉を使うことができる」といった文化的作法、教養も高いことがわかったとしています。

さらに、「青少年の体験活動等と自立に関する実態調査」(国立青少年教育振興機構)の報告書によると、生活体験や自然体験、お手伝いが多い子どもほど、道德感や正義感も高まることが明らかになったとしています。

以上のことから、どの時期にどんな体験を子ども達にさせていくことが、その子ども達が成長していく上で大切なのかということがよく分ります。

ご家庭では、家族とのかかわりをどのようにつくっていくか、地域においてはどのようにかかわらせていくのがいいのか、今後の参考にさせていただければと思います。

五日市小学校区の地域でも、体育協会、青少年健全育成協議会、五日市おやじの会の皆様方が、五小っ子のためにたくさんの方を体験させてやろうと、様々な行事を準備されています。そうした行事にぜひたくさんの方の本校の子ども達が参加してほしいと思っています。

ご家庭でも、子ども達の背中を一つ押ししていただけるとありがたいです。

学校、家庭、地域で子ども達を育てるとはこういうことをいうのではないかと思います。

今後も、子ども達の確かな成長へのご協力をよろしくお願いいたします。

